



TITLE:

田島先生を憶ふ

AUTHOR(S):

河田, 嗣郎

---

CITATION:

河田, 嗣郎. 田島先生を憶ふ. 經濟論叢 1934, 39(2): 286-288

ISSUE DATE:

1934-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130479>

RIGHT:

京都帝國大學經濟學會

# 經濟叢論

第二號

第三十九卷

昭和九年八月一日發行

哀辭

故田島博士近影及署名  
故田島博士原稿及京大弓道々場における博士

## 論叢

骨牌税に就きて……………法學博士 神戸正雄  
供給曲線の性質……………文學博士 高田保馬

## 時論

輸出統制の諸問題……………經濟學博士 谷口吉彦

## 研究

貨幣的景氣論史……………經濟學士 柴田敬  
金物價と貨幣價值安定……………經濟學士 松岡孝兒  
アダム・スミスの廉價即豊富論……………經濟學士 白杉庄一郎

## 記事

田島博士逝く  
故田島博士年譜及著書論文目錄  
追憶文

織田 萬	神戸 正雄	山本 美越乃	財部 靜治
河田 嗣郎	本庄 榮治郎	小島 昌太郎	大國 壽吉
汐見 三郎	黒 正 巖	田 島 順	石川 興二
谷口 吉彦			

## 附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

(禁 轉 載)

## 田島先生を憶ふ

河 田 嗣 郎

私は京都帝國大學法科大學時代に田島先生の教を受けた一人である。當時先生はまだ四十歳に滿たれない元氣最も旺盛な頃で、織田、岡松などの諸先生と共に實に新進京大法科の花形であつた。私共は、時の京大法科が諸教授とも若手揃ひで、官吏になるのには兎も角、學問研究の府としては世間から多大の望を囑せられ甚だ頼もしい所あるに惹きつけられて、京大を選んで入學したものであつた。

然し當時の京大經濟科といへば、實は餘り完備したものではなかつた。教授はといへば、我が田島先生と故新渡戸先生とだけで、故戸田先生や神戸、小川、財部の諸先生は皆まだ助教授で、しかも戸田、神戸兩先生は海外留學中といふ状態であつた。従て私共は主として田島先生の指導を受け、第三學年になつて甫めて戸

田先生が歸朝せられて兩教授の高教を仰ぐを得ることになつたのである。其後段々に我國に於ける經濟學の發達と相伴つて、京大の經濟科も擴大充實し、終には法學部から分離して經濟學部として獨立の地位を贏ち得るまでに至つたのだが、這間に在つて田島先生が經濟學の發展と經濟學部の發育との爲めに盡力せられ貢獻せられたる所の甚大なるは、茲に絮説を俟たないほど明確な事實である。そして先生が學に對する熱意と學生の指導上に於ける光風霽月の態度とは、先生の性格を其儘に表はすものであつて、何人も欽仰しないでは措き能はざる所のものである。

晩年の先生は東洋に於ける經濟思想特に古き時代の支那の經濟思想について研鑽し又業績を示されてゐたが、私共が教はつた頃の若い田島先生は、主として獨逸學派の經濟學説を傳へられ、ロツシャールとかワグナーだとか、ボエーム、バウエルクやクラインウエヒターなどの名は、殆んど講義の毎時間のやうに聞かされたものである。そして又晩年先生は社會主義思想特

にマルキシズムに對して、痛烈なる攻撃を加へられ、他方經濟と道德（特に儒教道德）との關係を高唱せられてゐたが、若き日の先生はかなり自由思想家であり、進歩主義者でもあり、社會主義思想の如きも之を説き之を明かにすることに於ては、教壇上でも隨分熱を上げられたものである。私はどうも社會主義思想の學的研究に於ける興味は先生から授かつたやうに思ふ。そして此事も亦我國の思想界の發達を助け、社會思想に關する自由研究と誤らざる批判とを學界に於て試むることの道筋を開くことに貢獻したる意味に於て、先生の功績の一に數へてよいと信ずる。ましてや先生が金井、松崎、山崎、高野の諸先生と共に、田口、浮田、田尻などの大先達の業を繼いで、我國に於ける現代經濟學の基礎を確立し、其の發展の本幹の爲めに盡されたる功業に至つては、我が經濟學史上特筆大書すべきものがある。そして先生の學説には常に或思想が之を導き之を裏付け其の礎石を爲し其の背景を爲してゐることを、何人も見過し得ないであらう。

追　憶　文

星移り物かはるは世の常なりとはいへ、我が經濟學界の大先輩として、いつ迄も我等の敬愛する田島先生を戴いてゐるやうに思つてゐたのに、斯くも忽焉として訃音に接し、匆茫として東山の火葬場に送り奉り、今又茲に思出の一端を記さんとは、洵に是れ夢の如き現實である。悲哉。

---